

専門家によるモニタリングコメント・意見【感染状況】

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
		<p>このモニタリングコメントでは、過去の流行を表現するために、便宜的に東京都における第1波、第2波、第3波、第4波、第5波及び第6波の用語を以下のとおり用いる。</p> <p>第1波：令和2年4月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第2波：令和2年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第3波：令和3年1月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第4波：令和3年5月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第5波：令和3年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第6波：令和4年2月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波</p>
		<p>世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスの変異株の呼称について、差別を助長する懸念から、最初に検出された国名の使用を避け、ギリシャ語のアルファベットを使用し、イギリスで最初に検出された変異株については「B.1.1.7 系統の変異株（アルファ株等）」、インドで最初に検出された変異株については「B.1.617 系統の変異株（デルタ株等）」、南アフリカで最初に報告された変異株については「B.1.1.529 系統の変異株（オミクロン株等）」という呼称を用いると発表した。国も、同様の対応を示している。</p> <p>このモニタリングコメントでは、以下、B.1.1.529 系統のオミクロン株等については「オミクロン株」とする。また、その下位系統として、BA.1 系統、BA.2 系統、BA.3 系統が位置付けられている。</p>
① 新規陽性者数		<p>都外居住者が自己採取し郵送した検体について、都内医療機関で検査を行った結果、陽性者として、都内保健所へ発生届を提出する例が見られている。</p> <p>これらの陽性者は、東京都の発生者ではないため、新規陽性者数から除いてモニタリングしている（今週3月29日から4月4日まで（以下「今週」という。）は987人）。</p> <p>また、新規陽性者数には、同居家族などの感染者の濃厚接触者が有症状となった場合、医師の判断により検査を行わずに、臨床症状で陽性と診断された患者数が含まれている（今週は458人）。</p> <p>①-1</p> <p>(1) 新規陽性者数の7日間平均は、前回3月30日時点（以下「前回」という。）の7,419人/日から、4月6日時点で約7,248人/日と横ばいであった。</p> <p>(2) 新規陽性者数の増加比が100%を超えることは感染拡大の指標となり、100%を下回ることは新規陽性者数の減少の指標となる。今回の増加比は約98%となった。</p>

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>【コメント】</p> <p>ア) 緩やかな減少傾向にあった新規陽性者数の7日間平均は、4月6日時点で約7,248人/日と、高い水準のまま横ばいで推移した。</p> <p>イ) 前回、約121%と大きく上昇した増加比は、今回も約98%と100%前後での推移が続いている。新年度を迎えて人の流れが増加しており、新規陽性者数が高い水準のまま、急速に感染が再拡大することに嚴重な警戒が必要である。</p> <p>ウ) 都では、東京都健康安全研究センターにおいて、オミクロン株 BA.2 系統に対応した PCR 検査を実施している。3月15日から3月21日の間に（PCR検査で）オミクロン株 BA.2 系統疑いと判定された件数と割合は、467件、52.3%、同じく3月22日から3月28日の間に759件、67.8%であった。都においても、流行の主体が、オミクロン株 BA.1 系統から、さらに感染力が高いとされる BA.2 系統に置き換わりつつある。（※4月7日時点の速報値。追加報告により、数値は遡って更新される可能性がある。）</p> <p>エ) 感染の機会をあらゆる場面で減らすとともに、換気を励行し、3密（密閉・密集・密接）の回避、人と人の距離の確保、不織布マスクを隙間なく正しく着用すること、手洗いなどの手指衛生、環境の清拭・消毒（テーブルやドアノブ等の消毒によるウイルスの除去等）等、ワクチン接種後も、基本的な感染防止対策を徹底することが重要である。</p> <p>オ) 第5波のピーク時には、重症患者の約60%を40代、50代が占めていたが、それらの世代におけるワクチン接種率の上昇に伴い、入院患者数及び重症患者数が急激に減少に転じた。ワクチン接種による重症化の予防と死亡率低下の効果は、オミクロン株に対しても期待できることから、3回目のワクチン追加接種を強力に推進する必要がある。</p> <p>カ) 東京都新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイト及び国提供資料によると、4月5日時点で、東京都のワクチン接種状況は、1回目、2回目、3回目の順に、全人口では79.6%、78.6%、44.4%、12歳以上では87.2%、86.6%、49.0%、65歳以上では92.9%、92.6%、82.2%となった。</p> <p>キ) 都内でも5～11歳のワクチン接種を実施している。小児においても中等症や重症例が確認されており、特に基礎疾患を有する等、重症化するリスクが高い小児には接種の機会を提供することが望ましいとされている。都では、小児への接種を検討している保護者向けに、ワクチン接種の概要を分かりやすくまとめたパンフレットを作成し、ホームページに掲載している。</p>

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		ク) 自分や家族が感染者や濃厚接触者となり、外出できなくなる場合を想定して、生活必需品など最低限の準備をしておくことを、都民に呼びかける必要がある。
	①-2	<p>今週の報告では、10歳未満 16.9%、10代 14.3%、20代 20.6%、30代 17.3%、40代 16.0%、50代 8.3%、60代 3.1%、70代 1.8%、80代 1.2%、90歳以上 0.5%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 新規陽性者数に占める20代の割合が3週間連続して上昇し、今週は全年代の中で最も高く、次いで30代が高くなっている。また、10歳未満の割合も依然として高い値で推移しており、警戒が必要である。5歳未満はワクチン接種の対象となっていないことから、保育園・幼稚園での感染防止対策の徹底が求められる。</p> <p>イ) 若年層及び高齢者層を含めたあらゆる世代が感染によるリスクを有しているという意識を、都民一人ひとりがより一層強く持つよう、改めて啓発する必要がある。</p>
	①-3	(1) 新規陽性者数に占める65歳以上の高齢者数は、前週(3月22日から3月28日まで(以下「前週」という。))の2,002人から、今週は2,453人に増加し、その割合は4.7%となった。
	①-4	<p>(2) 65歳以上の新規陽性者数の7日間平均は、前回の約331人/日から4月6日時点で約345人/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 重症化リスクの高い65歳以上の新規陽性者数の7日間平均は、増加傾向にあり、今後の動向に注意が必要である。</p> <p>イ) 医療機関での入院患者や高齢者施設等における入所者も、基本的な感染防止対策を徹底・継続する必要がある。</p>
①-5 -ア	(1) 今週の濃厚接触者における感染経路別の割合は、同居する人からの感染が69.6%と最も多かった。次いで施設(施設とは、「特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院、保育園、学校等の教育施設等」をいう。)及び通所介護の施設での感染が16.6%、職場での感染が4.5%であった。	
①-5 -イ	<p>(2) 今週も高齢者施設、教育施設、職場での感染例が多数見られた。また、高齢者施設、医療機関、小中学校、保育園・幼稚園などにおいて、多数の集団発生事例が確認されている。</p> <p>(3) 1月3日から3月27日までに、都に報告があった新規の集団発生事例は、福祉施設(高齢者施設・保育園等)1,237件、学校・教育施設(幼稚園・学校等)558件、医療機関117件であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 少しでも体調に異変を感じる場合は、外出、人との接触、登園・登校・出勤を控え、発熱や咳、痰、倦怠感</p>	

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>等の症状がある場合は医療機関を受診するよう周知する必要がある。</p> <p>イ) 今週は、会食による感染が明らかだった新規陽性者数は、前週の214人から431人に倍増した。歓送迎会等の会食は、できる限り短時間、少人数とし、会話時はマスクを着用することを繰り返し啓発する必要がある。</p> <p>ウ) 医療機関や高齢者施設等においては、施設内での集団発生も未だ確認されており、職員の就業制限等による社会機能の低下が危惧される。また、保育園・幼稚園や小学校等の休園・休校等により、保護者が欠勤せざるを得ないことも社会機能に大きな影響を与えている。施設での集団発生を防止するため、感染防止対策をより一層徹底する必要がある。</p> <p>エ) 都では、高齢者施設等で複数の感染者が発生した際の往診支援、嘱託医等による診療への支援、地区医師会が設置する医療支援チームの往診支援などを行っている。</p> <p>オ) 職場での感染を防止するため、事業者は、従業員が体調不良の場合に、受診や休暇取得を積極的に勧めるとともに、テレワーク、オンライン会議、時差通勤の推進、3密を回避する環境整備等の推進と、基本的な感染防止対策を徹底することが引き続き求められる。</p>
	①-6	<p>今週の新規陽性者 52,265 人のうち、無症状の陽性者が 3,265 人、割合は前週の 6.7% から 6.2% となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 今週も、症状が出てから検査を受けて陽性と判明した人の割合が高かった。</p> <p>イ) 無症状や症状の乏しい感染者からも、感染が広がっている可能性がある。症状がなくても感染源となるリスクがあることに留意して、日常生活を過ごす必要がある。</p>
	①-7	<p>今週の保健所別届出数を多い順に見ると、世田谷 4,220 人 (8.1%) と最も多く、次いで多摩府中 3,513 人 (6.7%)、大田区 2,841 人 (5.4%)、足立 2,528 人 (4.8%)、練馬区 2,367 人 (4.5%) であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>保健所では、オミクロン株の特性を踏まえ、濃厚接触者の特定、積極的疫学調査を効果的・効率的に実施していく必要がある。</p>
	①-8 ①-9	<p>今週は、都内保健所のうち約 29% にあたる 9 保健所で、それぞれ 2,000 人を超える新規陽性者数が報告された。</p> <p>【コメント】</p> <p>都は、保健所に人材を派遣して支援している。療養者に対する感染の判明から療養終了までの保健所の一連の業務を、都と保健所が協働し、補完し合いながら一体的に進めていく必要がある。</p>

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
② #7119 における発熱等相談件数		#7119 の増加は、感染拡大の予兆の指標の1つとしてモニタリングしてきた。都が令和2年10月30日に発熱相談センターを設置した後は、その相談件数の推移と合わせて相談需要の指標として解析している。
	②	<p>(1) #7119 における発熱等相談件数の7日間平均は、前回の79.9件/日から、4月6日時点で72.0件/日と横ばいであった。</p> <p>(2) 都の発熱相談センターにおける相談件数の7日間平均は、前回の約2,957件/日から、4月6日時点で約2,988件/日と横ばいであった。</p> <p>【コメント】 発熱等相談件数の7日間平均は、未だ高い値のまま推移している。引き続き#7119 と発熱相談センターの連携を強化していく必要がある。</p>
③ 新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比		新規陽性者における接触歴等不明者数は、感染の広がりを反映する指標であるだけでなく、接触歴等不明な新規陽性者が、陽性判明前に潜在するクラスターを形成している可能性があるためモニタリングを行っている。
	③-1	<p>(1) 接触歴等不明者数は、7日間平均で前回の約4,666人/日から、4月6日時点で約4,575人/日と横ばいであった。</p> <p>(2) 今週の接触歴等不明者数の合計は32,860人で、年代別の人数は、10代以下が9,088人と最も多く、次いで20代8,513人、30代5,735人の順である。</p> <p>【コメント】 接触歴等不明者数は、依然として高い値で推移している。接触歴等不明者の周囲には陽性者が潜在していることに注意が必要である。</p>
	③-2	<p>新規陽性者における接触歴等不明者の増加比が100%を超えることは、感染拡大の指標となる。4月6日時点の増加比は、前回の約126%に続いて約98%と、100%前後で推移している。</p> <p>【コメント】 前回、約126%と大きく上昇した増加比は、今週も約98%と100%前後で推移している。継続して100%を超えることに厳重な警戒が必要である。感染経路が追えない第三者からの潜在的な感染を防ぐため、基本的な感染防止対策を常に徹底することが重要である。</p>
③-3	<p>(1) 今週の新規陽性者に対する接触歴等不明者の割合は、前週の約63%から同じく約63%となった。</p> <p>(2) 今週の年代別の接触歴等不明者の割合は、20代が前週に続いて約79%と高い値となっている。</p>	

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
		【コメント】 80代以上を除く全ての世代で、接触歴等不明者の割合が50%を超えており、20代では約79%と、行動が活発な世代で高い割合となっている。

専門家によるモニタリングコメント・意見【医療提供体制】

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
	医療提供体制の分析（オミクロン株対応）	<p>オミクロン株の特性に対応した医療提供体制の分析は以下のとおりである。</p> <p>(1) オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、3月30日時点の11.8%（95人/804床）から、4月6日時点で8.7%（70人/804床）となった。</p> <p>(2) 入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合は、3月30日時点の23.1%から、4月6日時点で21.7%となった。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症のために確保した病床使用率は、3月30日時点の25.5%（1,844人/7,229床）から、4月6日時点で24.6%（1,777人/7,229床）となった。</p> <p>(4) 救命救急センター内の重症者用病床使用率は、3月30日時点の74.6%（461人/618床）から、4月6日時点で69.8%（430人/616床）となった。</p> <p>(5) 救急医療の東京ルールの適用件数については、113.4件/日と、高い水準で推移している。</p> <p>【コメント】</p> <p>「オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率」は低下、「入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合」は横ばいであった。引き続き動向を注視する必要がある。</p>
④ 検査の陽性率（PCR・抗原）	④	<p>PCR検査・抗原検査（以下「PCR検査等」という。）の陽性率は、検査体制の指標としてモニタリングしている。迅速かつ広くPCR検査等を実施することは、感染拡大防止と重症化予防の双方に効果的と考える。</p> <p>濃厚接触者で、医師の判断により検査を行わずに、臨床症状で陽性と診断された患者458人は、陽性率の計算に含まれていない。</p> <p>7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の31.8%から4月6日時点で31.9%となった。また、7日間平均のPCR検査等の人数は、前回の約13,853人/日から、4月6日時点で約13,859人/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 陽性率は、4月6日時点で31.9%と極めて高い値で推移している。民間検査センターや検査キットで自ら検査した患者の存在が、陽性率に影響を与える可能性がある。無症状や軽症で検査未実施の感染者が多数潜在している状況が危惧される。</p> <p>イ) 自分自身に濃厚接触者の可能性がある場合や、ワクチン接種済みであっても、発熱や咳、痰、倦怠感等の症</p>

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
		<p>状がある場合は、かかりつけ医、発熱相談センター又は診療・検査医療機関に電話相談し、特に、症状が重い場合や、急変時には速やかに医療機関を受診する必要がある。</p>
⑤ 救急医療の東京ルールの適用件数	⑤	<p>東京ルールの適用件数の7日間平均は、前回の132.0件/日から4月6日時点で113.4件/日と、未だ高い水準で推移している。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 東京ルールの適用件数は高い水準で推移しており、救急医療体制に未だ深刻な影響が残っている。</p> <p>イ) 救急車が患者を搬送するための現場到着から病院到着までの活動時間は、短縮傾向ではあるが、新型コロナウイルス感染症流行前の水準と比べると、依然延伸したまま推移している。</p>
⑥ 入院患者数	⑥-1	<p>(1) 入院患者数は、前回の1,935人から、4月6日時点で1,844人と横ばいであった。</p> <p>(2) 今週、新たに入院した患者は1,033人、入院率は2.0% (1,033人/今週の新規陽性者52,265人) であった。</p> <p>(3) 陽性者以外にも、陽性者と同様の感染防御対策と個室での管理が必要な疑い患者について、都内全域で約151人/日を受け入れている。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 入院患者数が、減少傾向から今週は横ばいとなった。入院患者数に占める高齢者の割合は未だ高い値であり、今後の動向を注視する必要がある。</p> <p>イ) 新型コロナウイルス感染症のために確保した病床の使用率は、3月30日時点の25.5% (1,844人/7,229床) から、4月6日時点で24.6% (1,777人/7,229床) となった。</p> <p>ウ) 都は病床確保レベル3 (7,229床) を各医療機関に要請しており、4月7日時点での確保病床数は6,614床である。</p> <p>エ) 都では、入院重点医療機関、高齢者施設等におけるスクリーニング検査の実施に加え、自宅や高齢者施設への往診等による中和抗体薬及び抗ウイルス薬投与の体制を整備しており、国によるこれらの検査キット、治療薬やワクチンの確保と安定的な供給が求められる。</p> <p>オ) 入院調整本部への調整依頼件数は、4月6日時点で101件となった。透析、介護を必要とする者等、入院調整が難航する事例も引き続き発生している。入院調整本部では、入院調整班、重症班、軽症班、転院支援班、保健所支援班、往診支援班などを設置し、中和抗体薬等の担当とも連携して対応している。</p>

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
⑥ 入院患者数	⑥-2	<p>4月6日時点で、入院患者の年代別割合は、80代が最も多く全体の約27%を占め、次いで70代が約21%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 60代以上の割合が約70%と、高齢者の入院患者数及びその割合が高い値のまま推移しており、医療機関では多くの人手を要している。</p> <p>イ) 都は、小児医療体制の確保や、分娩取扱い医療機関の連携による診療体制の確保に向け、意見交換会の実施や、MIST（東京都新型コロナウイルス感染者情報システム）の活用による情報の共有化を進めている。</p>
	⑥-3 ⑥-4	<p>検査陽性者の全療養者数は、前回の90,957人から4月6日時点で100,146人となった。内訳は、入院患者1,844人（前回は1,935人）、宿泊療養者3,710（同3,230人）、自宅療養者41,560人（同43,121人）、入院・療養等調整中53,032人（同42,671人）であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 減少傾向にあった全療養者数は、前回から増加した。また、全療養者に占める入院患者の割合は約2%、宿泊療養者の割合は約4%であった。自宅療養者と入院・療養等調整中の感染者が約94%と大多数を占めている。</p> <p>イ) 感染の再拡大に備え、通常の医療提供体制とのバランスを保ちながら、オミクロン株の特性を踏まえた入院、宿泊及び自宅療養体制の強化に向けた検討を行う必要がある。</p> <p>ウ) 都は、33か所（受入可能数8,850室）の宿泊療養施設を確保し、東京都医師会・東京都病院協会の協力を得て運営している。</p> <p>エ) 都は、病床を有効活用するため、新型コロナウイルス感染症の治療が終了した高齢者について、療養病床への転院を更に促進することとした。</p> <p>オ) 受診・検査が必要な方を迅速な診療・検査体制につなげる必要があり、都は、都内約4,300か所全ての診療・検査医療機関をホームページで公表している。</p> <p>カ) 都はこれまで、約333,400台のパルスオキシメータを確保し、区市保健所へ約69,700台配付するとともに、東京都医師会へも20,000台貸与している。</p>
		<p>東京都は、その時点で、人工呼吸器又はECMOを使用している患者数を重症患者数とし、医療提供体制の指標としてモニタリングしている。</p>

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
⑦ 重症患者数		<p>東京都は、人工呼吸器又は ECMO による治療が可能な重症用病床を確保している。</p> <p>重症用病床は、重症患者及び集中的な管理を行っている重症患者に準ずる患者（人工呼吸器又は ECMO の治療が間もなく必要になる可能性が高い状態の患者、及び離脱後の不安定な状態の患者等）の一部が使用する病床である。</p> <p>人工呼吸器又は ECMO を使用した患者の割合の算出方法：1月4日から4月4日までの13週間に、新たに人工呼吸器又は ECMO を使用した患者数と、1月4日から3月28日までの12週間の新規陽性者数をもとに、その割合を計算（感染してから重症化するまでの期間を考慮し、新規陽性者数を1週間分減じて計算している。）</p>
	⑦-1	<p>(1) 重症患者数は、前回の32人から4月6日時点で29人となった。</p> <p>(2) 今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は14人（前週は12人）、人工呼吸器から離脱した患者は13人（同19人）、人工呼吸器使用中に死亡した患者は5人（同5人）であった。</p> <p>(3) 今週、新たに ECMO を導入した患者はおらず、ECMO から離脱した患者もいなかった。4月6日時点において、重症患者のうち ECMO を使用している患者は2人であった。</p> <p>(4) 4月6日時点で重症患者に準ずる患者は、人工呼吸器等による治療を要する可能性の高い患者等66人（ネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者32人を含む）（前回は85人）、離脱後の不安定な患者は11人（同15人）であった。</p> <p>(5) 今週、人工呼吸器を離脱した患者の、装着から離脱までの日数の中央値は13.0日、平均値は15.0日であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 4月6日時点で、重症患者数は29人と減少傾向にあるものの、重症患者に準ずる患者は77人と高い値で推移している。重症患者は新規陽性者の増加から遅れて増加し始めることから、今後の動向に十分警戒する必要がある。</p> <p>イ) たとえ肺炎は軽症であっても、併存する他の疾患のため集中治療を要する患者が存在しており、オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率の推移を注視する必要がある。</p>
	⑦-2	<p>(1) 4月6日時点の重症患者数は29人で、年代別内訳は10歳未満2人、10代1人、20代1人、30代1人、40代1人、50代3人、60代5人、70代11人、80代4人である。性別では、男性20人、女性9人であった。</p> <p>(2) 年代別の人工呼吸器又は ECMO を使用した患者の割合は、40代以下0.01%、50代0.05%、60代0.20%、70代</p>

モニタリング項目	グラフ	4月7日 第85回モニタリング会議のコメント
⑦ 重症患者数		<p>0.50%、80代0.49%、90歳以上0.15%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 年代別の人工呼吸器又はECMOを使用した患者の割合は、40代以下の0.01%と比較して、50代は0.05%、60代は0.20%と高く、70代以上では0.45%とさらに高くなる。</p> <p>イ) 4月6日時点で、重症患者29人のうち60代以上が20人と約69%を占めている。高齢者の新規陽性者数及び重症患者数の増加に警戒する必要がある。</p> <p>ウ) あらゆる年代が、感染により、併存する他の疾患が悪化するリスクを有していることを啓発する必要がある。</p> <p>エ) 今週報告された死亡者数は57人（10歳未満1人、30代1人、40代1人、50代2人、60代6人、70代14人、80代22人、90代8人、100歳以上2人）であった。4月6日時点で累計の死亡者数は4,213人となった。</p> <p>オ) 特に重症化する患者の割合が高く死亡者数も多くなる50代以上と、感染で悪化するリスクがある疾患を持つ都民に、重症化の予防と死亡率低下が期待できる3回目のワクチン追加接種を強力的に推進する必要がある。</p>
	⑦-3	<p>今週新たに人工呼吸器を装着した患者は14人であり、新規重症患者（人工呼吸器装着）数の7日間平均は、前回の1.4人/日から4月6日時点で1.7人/日に増加した。</p>